



和's YAMATO

(わづやまと)

2021
初春号

- お客様紹介 「ホテルマウント富士」
- 群馬の芸術家 「明田一久」
- 郷土史跡めぐり 「本郷奥原古墳群」
- 中居屋重兵衛 「生誕200年記念誌」
- 東京大学史料編纂所教授 本郷和人氏

《スペシャルインタビュー》



「蠟梅の香り」F6号 須藤和文 画
ヤマトビオトープ園にて



明智光秀の 人物像を探る

後編

本能寺の変 明智家存続のために謀反を決断か 宣教師の記録から読み取る光秀の真意



明智光秀は織田信長を本能寺の変(天正十年・一五六二)で自害に追いやった人物として有名です。光秀はなぜ本能寺の変を起したのか。歴史家の本郷和人氏に、歴史学の観点から、有力な資料が発見されたことを伺いました。

(聞き手・構成…木下直也)

―本能寺の変で有力な四国長宗我部説

なぜ明智光秀は本能寺の変を起したのか。端的に言ってしまうと「わからない」です。人の心の中はわからない、それを扱うのは歴史学では無く文学です。しかし、本能寺の変はあまりにも大きな事件なので、その真相を知りたくなるのは人情です。光秀が信長にいじ

められての怨恨説、朝廷や足利義昭が黒幕とする説などがもつともらしく語られますが、いずれも信ぴょう性が低く、その中で今後の研究によって歴史的な広がりが見込めるのは、四国長宗我部説です。光秀は信長からの信任が厚く、織田家と長宗我部家の間を取り持つ申次(もうしつぎ)の役目を担っていました。ところが、信長は突如方針を転換し、長宗我部の討伐に乗り出すのです。申次の役目は鎌倉時代からあり、申次を飛ばして相手方と連絡を取ることができない決まりになっている。申次によって戦わずに降伏させることもでき、それが申次の手柄になる。にもかかわらず、光秀との交渉を反故にして、織田軍が攻め入ってくるとなれば、長宗我部に顔向けできず、申次としての光秀の面目

―宣教師 ルイス・フロイスの記録を分析

は丸つぶれです。これが一因となって光秀が本能寺の変を起した、とする説は、学問的に発展させられる可能性があるのです。しかし、今年になって、この有力な説が公表されましたので、紹介します。

浅見雅一(あさみまさかず)先生の近著、「キリシタン教会と本能寺の変」(2020年5月10日初版発行)は、イエズス会の文書から、本能寺の変にアプローチすることを試みています。浅見先生はキリスト教の研究をしており、ポルトガル語、スペイン語を解読でき、加え



て日本史にも素養がある。宣教師の記録は、ポルトガル語、スペイン語、ラテン語で書かれており、戦国時代と現代では日本語も違うので、戦国時代の宣教師の書いた記録を解読する能力のある研究者は少数で、浅見先生がその一人です。浅見先生が分析した宣教師の文書は、事件があった直後に書かれており、資料の信ぴょう性が高いと判断できます。光秀が信長にいじめられて恨みを持つての

復讐とする説の根拠は、江戸時代に書かれた書物です。それは読物の域を出ないのです。

―明智家存続のための謀反

浅見先生が、宣教師のルイス・フロイスの手書きの原典を詳細に分析したところ、信長が明智家を滅ぼそうとしている、十五郎(光秀の子、光慶)の命が狙われている、と光秀が憂慮している、とする記述があったということです。光秀は主だった四人の家臣を集めて、十五郎の命を奪われ、明智家が滅びるのを阻止するために、信長を討とうと思っている、と伝えると、全員が賛成した。四人の家臣とは、明知秀満、明知光忠、齊藤利三、藤田伝吾。四人とも賛同した



ルイス・フロイスの像(長崎県西海市の横瀬浦公園)

ので、光秀は決意を固めて信長を襲撃した。この資料は、従来の資料と比較すると格段に質が高い。この資料を否定すると、実証的な歴史研究ではなくなってしまうほどのレベルなのです。

当時、光秀は丹波の国を本拠地にしていました。明知秀満は丹波の福知山城を任されており、次女が嫁に行った明智光忠は、丹波で最も権勢をふるっていた波多野氏が支配していた八上城を、齊藤利三は丹波の黒井城をそれぞれ治めている。この三人は丹波で重要な拠点を任されている重臣で、四人目の藤田伝吾は昔から光秀に仕えていて信任が厚かったらしいので、光秀がその四人に相談し、決断したとする宣教師の記録は信ぴょう性が高いということになります。

―なぜ明智光慶は信長に狙われたのか

先述した宣教師フロイスの記録を発見した浅見先生は、とても実証的な研究者で、確信を持つることしか発表しません。浅見先生の著書「キリシタン教会と本能寺の変」には、光秀は、信長によって明智十五郎光慶が誅殺され、明智家が滅ぼされるかもしれないので、信長を討った、ということまで書かれている

が、その先は書いていない。なぜ、明智光慶が信長に狙われたのか、今後はその部分が問題になってきます。

私の推測では、徳川家康の息子・信康が、信長に切腹を命じられた事件と同じような構図と見ることができると信長は、次世代のことを考えて、信長の嫡男・信忠に政権を譲る際に、信康が信忠より優秀なので、信康を排除しておくうと考えた、とする説があります。光秀が、十五郎の命が危ない、と危惧するのは、信康の切腹事件と重なる要因があったのではないかと。しかし、この説だと、信長は十五郎を殺せと言っているにもかかわらず、大軍を持つ光秀を警戒しないで本能寺にいたことの説明がつかなくなる。

一方、信長は、光秀に徳川家康を殺せと言ったのではないかと、する仮説もある。信長にとって、家康は滅ぼすべき相手、堺に遊びに来いと言って、光秀に接待役をさせ、家康を殺せと命じられ、光秀はそれを断った。怒った信長は、明智家を滅ぼすことを決意したのではないかと。それを察知した光秀は、息子だけでもキリスト教勢力に逃れさせれば、明智家は滅びなくて済むと考えたのではないかと。このように浅見先生の資料から発展させて真相を探るべきと私は考えます。

―動機の諸説は信ぴょう性が低い

いずれにせよ、光秀が「このままでは明智家は滅びる」と、重臣に相談した記録は信用性の高いもので、歴史的事実になります。従来の足利幕府陰謀説や朝廷陰謀説、四国長宗我部説を否定する威力がある。「麒麟がくる」では、時代考証が小和田哲男先生なので、小和田先生は非道阻止説という、信長の寺院襲撃など非道を止めるために本能寺の変を起した、と描かれると思うが、歴史的な事実には照らし合わせると、それも否定されます。

今回の浅見先生による新資料の発見は、本能寺の変の核心に一歩近づいた、といえるのです。

本郷和人氏 略歴

1960年、東京生まれ。東京大学史料編纂所教授。東京大学、同大学院で、石井進氏、五味文彦氏に師事し、日本中世史を学ぶ。著書は「新・中世王権論」(文春学芸ライブラリー)、「権力の日本史」(日本史のツボ)「いずれも文春新書」。「乱と変の日本史」(祥伝社新書)。「信長「歴史的人間」とは何か」(トランスビュー)。「明智光秀10の謎」(細川珠生氏共著 宝島新書)ほか多数。

上州出身・幕末の貿易商

中居屋重兵衛

生誕200年記念で資料写真誌を発刊

中居屋重兵衛の生誕200年を記念し、2020年8月に中居屋重兵衛顕彰会から「中居屋重兵衛生誕200年記念」が発行されました。記念誌はA4版87ページで、群馬県山本知事、群馬県議会秋原議長、嬭恋村熊川村長、横浜市中区直井区長が寄稿しています。また、本誌の監修者の横浜開港資料館西川館長が中居屋重兵衛の功績を解説しています。

本誌は、火薬、子ども教育などの著作、日記、書状、手紙の紹介や、幕末の生糸貿易に関する古文書、生家墓、記念碑の写真などで構成されています。



中居屋重兵衛の肖像画

生糸貿易で日本の経済繁栄をけん引 時代の先駆者として後世に語り継がれる

中居屋重兵衛(本名・黒岩撰之助)は文政三年(一八二〇)吾妻郡中居村(現在の群馬県嬭恋村三原)の出身で、火薬の研究や医学を学んだ。火薬の製造販売や、生糸など全国諸藩の特産物を扱い、商人としての道を歩みはじめ、安政六年(一八五九)四十歳の時に、横浜港で貿易商として店舗を構え、外国に生糸を売り込む商いで巨万の富を築く。また、政治との太い

パイプを持つ政商として、幕府の横浜開港計画に参画していたと考えられ、学識を併せ持つ商人として際立った存在だったと推察される。

横浜進出を機に、黒岩撰之助は名を中居屋重兵衛に改めた。横浜新開港地の区画のうち最も条件の良い土地に、豪華な店舗を建てた。店内は外国の貿易商が靴のままで商品を見ることができ、現代

のデパートのような斬新さだったという。幕末の古文書「横浜開港二件書類(藩交易の記録・東大資料編纂所蔵)」には、上田、紀伊藩などが重兵衛に物産の取り扱いを一任するとの記録が残っており、開明派幕閣の意図を踏まえた特権商人であったことがうかがえる。

末に政商として活発に活動していたと推察される重兵衛のことを次のように語っている。

「桜田門外の変が起こった時、嬭恋村の重兵衛の生家にも飛脚が来て、井伊大老を討ったという内容の手紙が届いたと聞いています。重兵衛が水戸浪士を支援していたことは間違いないと思いますが、それを裏付ける信用性の高い資料は発見されていません。幕府から通達があった取引量を無視して外国に生糸を売ったことも、幕府に追われる原因だったかもしれない。」

この勢いで明治を迎えていけば、重兵衛は大財閥の一つに数えられるかと思われ、が、横浜進出からわずか二年、四十二歳の若さで幕府から追われ横浜から離れた。幕府の保守派勢力は、重兵衛が横浜港に建てた豪壮な店に難癖をつけ、営業停止に追い込んだ。保守派に逮捕されるのを察した重兵衛は姿をくまましたと考えられる。房総方面に逃れた後、江戸に潜入して隠れていた時に最期を遂げたようだが、信ぴょう性の高い資料が残っていない。

重兵衛は自らを「鳥居川(吾妻川)辺人」と称し、横浜での屋号「中居屋」は故郷の中居村にちなんでつけたはずである。上州に対する思慕の念を持ち続け、生糸を通じて日本の近代化に貢献した人物であることは間違いない。(広報室木下記)



中居屋七代目・黒岩幸一氏



子供教草
重兵衛が35歳の時に書いた子供の向けの教養本。この中で「利を以って利となさす。義を以って利となす」と説いている。



中居屋重兵衛の碑(JR万座鹿沢口駅前)



中居屋重兵衛の墓(群馬県指定史跡)
吾妻郡嬭恋村大字三原260番地



群馬県立日本橋の里(高崎市金子町)は、群馬県蚕糸業の歴史と絹の魅力を再認識する発信拠点として平成十年(1998)4月にオープンしました。それを記念し、群馬県蚕糸業発展の基礎を築いた功労者の代表下村善太郎と中居屋重兵衛の肖像画がプリントされた絹布が所蔵されました。下村善太郎は安政六年(1859)に横浜が開港すると、外国に生糸売り込みを計画。中居屋重兵衛と出会い、中居屋に最高の「前橋生糸」を供給する大荷主として大活躍しました。(中居屋重兵衛生誕200年記念誌61-62ページに掲載)



中居屋重兵衛 生誕200年記念 表紙

本郷奥原古墳群

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 主任調査研究員 齋藤 聡

本郷奥原古墳群は、七世紀のおよそ百年間、村落社会の有力家族層によって営まれた古墳群で、その中心となる五十三号墳は高崎市指定史跡として整備・保存されています。



53号墳の石室開口部と前庭部



標名木戸神社

本郷奥原古墳群は、今からおおよそ二四〇〇年前の七世紀、烏川北岸の本郷台地上に営まれた古墳群です。昭和四〇年代に行われた発掘調査時には、南北三二〇メートル、東西二三〇メートルの範囲に、六十五基の円墳が群集していました。墳丘の直径は、比較的大きなものでも二十数メートル、多くは十メートル前後と小規模です。

本郷奥原古墳群の造営が始まった七世紀のはじめ、遠く離れた飛鳥では聖徳太子が活躍していました。また、法隆寺が創建されるなど、日本ではじめて仏教文化が花開いた時代でもあります。やがて大化の改新(六四五年)や壬申の乱(六七二年)を経て、日本は律令国家としての礎を築いていきました。

このような激動の七世紀にあつて、当時の群馬県(上毛野)ではどのような変化が起きていたのでしょうか。

七世紀になると、それまで盛んにつくられていた大型の古墳(前方後円墳)は

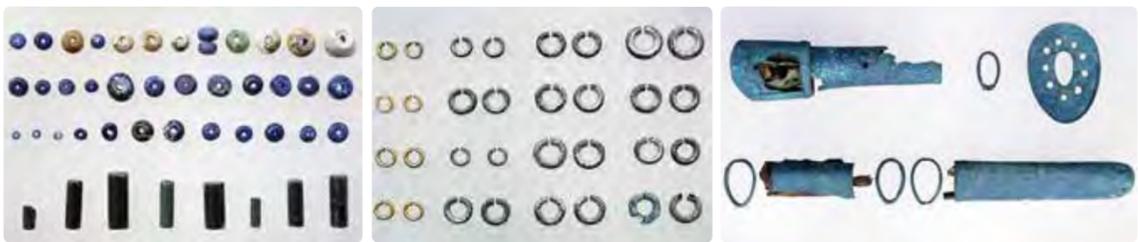
つくられなくなります。代わって県内各地に小型の円墳が集まる群集墳が見られるようになります。これは、それまで権力者に限られていた古墳造営の習慣が、村落社会の有力家族層にまで広がったことを示しています。

また、七世紀後半になると県内にも寺院が建立されるようになります。七世紀といえば庶民はまだ堅穴住居で暮らしていた時代ですから、白壁、朱塗りの柱、瓦葺きの寺院建築は、驚きをもつて迎えられたことでしょう。この最新の技術と膨大な労力を必要とする寺院の建立によって、権力者たちは自らの権威を示したと考えられます。

本郷奥原古墳群の造営は、七世紀のはじめ、五十三号墳の築造から始まります。この五十三号墳は、墳丘の直径がおおよそ二十五メートルで、三段の構造をもつ円墳です。南西に向かって開口する横穴式石室は、全長およそ九メートルと本郷奥原古墳群では最大規模です。石室開口部の前には、小石を敷きつめた前



北東上空から見た本郷奥原古墳群



小玉・丸玉・管玉

金銅製耳環

刀装具

庭部が広がります。この台形状の前庭部では、墓前祭祀が行われました。

やがて、この五十三号墳を取り囲むように多くの古墳がつけられていきます。これらの古墳を造営した人々は、豪族などの権力者ではなく、村落社会で生活する有力家族層と考えられます。古墳の石室からは、メノウ製勾玉、水晶製切子玉、碧玉製管玉、ガラス製丸玉・小玉、琥珀製棗玉、金銅製耳環などの装身具類のほか、大刀や鉄鎌、馬具類など、専門職人の手による多くの品々が出土しています。これらの副葬品の数々は、有力家族層の経済的な豊かさを物語っています。

また、古墳の前庭部からはたくさんの須恵器が出土していますが、これらの多くは高崎市の観音山丘陵、安中市の秋間丘陵、太田市の金山丘陵などで焼かれたものであることがわかっています。また、中には東海地方から運び込まれたと思われるものもあり、これらの土器群は、村落社会の有力家族層が物資の需給に必要な他地域との交流を積極的に進めていたことを示しています。

この本郷奥原古墳群の北東には、標名木戸神社があります。この神社の周

辺は、以前から古代瓦の散布地として知られています。このことから、標名木戸神社の周辺には、七世紀後半頃には寺院が建立されていたと考えられるのです。これは前橋市の山王廃寺、伊勢崎市の上植木廃寺、太田市の寺井廃寺と並ぶ、県内で最も古い時期の寺院のひとつと考えられます。

激動の七世紀、この本郷の地で暮らした人々は、家族を埋葬するための古墳をつくり、遠方との交流を通じて多くの貴重な物資を手に入れ、大陸から伝わった仏教という新しい文化を受け入れ、豊かな生活を送っていたのでしよう。

現在でも、この本郷奥原古墳群には、高崎市指定史跡として整備・保存されている五十三号墳のほかにも、住宅地や耕作地の中に数基の古墳が残されています。北にそびえる標名山を背に立つと、眼下には果てしなく続く関東平野の眺望が広がります。皆さんも一度、ここに立つて古代のロマンを感じてみてはいかがでしょうか。

参考文献
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団「983 本郷奥原古墳群」
標名町誌編さん委員会「010 標名町誌資料編1」

明田一久

石の鳥にユーモアを託して

美術研究家 染谷 滋

空とぶ惑星

株式会社ヤマトのピオトープの奥に、二〇一七年五月に設置された石の彫刻作品がある。《空とぶ惑星》と題されたその作品は、丸い大きな安山岩の台座に載っていて、六方石と呼ばれる溶岩が冷却する過程で生まれる柱状節理による細長い石が主役である。下部は磨かれて黒光りする波のように見え、上部は粗い石の素顔のままに茶褐色の斑模様となっている。石を磨いても必ず黒くなる訳ではないが、磨き方でこれほどの差が出るのは驚きだ。

この石が主役だとはいつたが、見る人の関心はその上の不思議な生き物に注がれるだろう。大きなくちはしとトサカが伸び、ギョロリとした目を見開いている。種別は不明だが鳥なのだそう。こちらは黒御影石で作られ、磨き方の違いでまるで黒と白に塗り分けられたように見える。

生い立ち、石彫家へ

作者の明田一久は、一九七二(昭和四六)年九月二日に高崎市で生まれた。姉弟二人で、工作が大好きな子どもだったようだ。文鳥を飼い、初めて買ってもらった

一九九五(平成七)年に大阪芸大を卒業した明田は、同校の修士課程に進学して二年を費やし、その後も何人かの先輩彫刻家の助手などを勤めて現場経験を積んだ。郷里群馬に戻ったのは、一九九九(平成一二)年の大晦日。故郷に戻るのは母親との約束だった。群馬に戻った明田は、母親の親戚が所有していた前橋の石倉町にアトリエを建てた。二〇年経った今でも、その場所が明田の制作拠点となっている。

全国を走り回って制作

二〇〇二(平成一四)年結婚。お相手は大阪芸大の同期生で、陶器で彫刻を作る人だそう。帰郷後の明田は、実に積極的に活動的だ。彫刻という分野は、絵画に比べるとコンクールも発表の機会も少ないのだが、明田はありとあらゆる機会を逃さずチャレンジしているように見える。

オートバイや車で全国を走り回り、二〇〇〇年の宮崎県日向市での現代彫刻展市民大賞受賞をはじめとして、二〇〇五年秋田県井川町の桜の森彫刻コンクール優秀賞、二〇〇八年長野県高山村のりんごアートコンテスト優秀賞、二〇一二年埼玉県川越市の彫刻シンポジウム優秀賞など、受賞した記録を数えるだけでも枚挙に暇がない。

アケタワールド

明田の作品はユーモアに満ちている。ペンギンやツバメ、猫、熊、兎、タヌキ、ワニ、カマキリ、蜂など、様々な動物たちが擬人化され、オートバイに乗ったり温泉につかったりしている様が表現される。人々を驚かせ

ペンギンのぬいぐるみを大切にしたいという。鳥というモチーフとの出会いは、少年時代からあった。

中学三年になった四月、自動車販売を仕事としていた父親が、その車にはねられて四五歳の働き盛りで亡くなる。多感な時期の家族の不幸は、明田の人生観に大きな影響を与えたのではないかと想像する。

玉村高校に進学。一二km余りの道のりを自転車通勤したが、当時八万円という愛車は、今でもアトリエの壁に大切に保管されている。機械や電気製品が大好きで、音響メーカーに就職することも考えていたという。

大学は一年浪人して大阪芸術大学美術学科へ。大阪芸大(大芸と呼ばれる)は戦後誕生した私立大学で、南河内郡河南町にある。どうせ選ぶなら遠くの大学にしようと思ったそう。

粘土遊びが好きだった子ども頃の思い出が、明田を彫刻へと進ませたが、卒業制作は石彫を選んだ。理由は石が一番難しいように思え、そんなときでもなければ扱わないだろうと考えたからだ。その選択が石彫家への道を決定付けた。

たい、楽しませたいという気持ちだが、明田の制作の動機なのだ。

以前、東京での個展の際に原稿を頼まれ、「石のツバメは空を舞うか」と題した少し挑発的な文章を書いた事があった。その問いかけに答えた明田の作品は、凧にツバメを乗せて空中に舞わせるというものだった(図版参照)。どこまでも諧謔で人を笑わせる明田の作品世界には、脱帽せざるを得ない。

再び《空とぶ惑星》へ

もう一度、ヤマトのピオトープに戻ろう。黒く磨かれた六方石の表面をよく見ると、航跡を残して進む何隻かの小さな船が見つかる。削り残して作られており、最初から計算されていたものだ。

この船を発見すると、黒い部分は海で、茶褐色の部分が大地であることに気が付き、生い茂る樹木の存在も際立ってくる。六方石の塊は、まさに地球そのものとなつて空とぶ惑星へと変貌する。鳥はその地球上に棲息する全ての生物の象徴として屹立し、我々自身でもあるのだ。

六方石が溶岩の冷却で生まれることは冒頭に述べた。花こう岩である御影石もそうだが、大自然の営みで生まれる様々な石には、地球の記憶が刻まれている。石を彫るといふ営みは、時そのものを刻む行為でもあるのだ。

ユーモアにあふれ、面白さだけが目に付く明田の作品ではあるが、その制作にかける情熱と想いは誰にもひけは取らない。それは、いつても真剣なまなざしの奥に隠された、芸術家魂なのだろう。



空とぶ惑星(2008年)



月あかり(2017年)

略歴 明田一久 KAZUHISA AKETA

- 1971 9月12日 高崎市に生まれる
- 1995 大阪芸術大学美術学科彫刻卒業
- 1997 大阪芸術大学芸術専攻科美術彫刻修了
- 2000 宮崎県・日向現代彫刻展で日向市民大賞
- 2005 秋田県・第6回桜の森彫刻コンクール優秀賞
- 2006 静岡県立美術館・第18回富嶽ビエンナーレ佳作賞
- 2008 前橋ギャラリーアイズ個展「STONE WORKS」
- 長野県・第3回りんごアートコンテスト優秀賞
- 2009 渋川市美術館「The rising generation 7」
- 2011 高崎 日本橋高島屋個展「STONE WORKS」
- 2012 第5回小江戸川越トリエンナーレ優秀賞
- 2014 中之沢美術館個展「石から生まれた生きものたち」
- 2015 東京都中野区・土日画廊個展「STONE WORKS」
- 2017 アーツ前橋「前橋の美術2017」
- 2018 中国 第23回ハルビン国際雪像彫刻大会最佳技巧賞
- 東京都目黒区・長泉院附属現代彫刻美術館個展
- 2019 日本橋三越本店「彫刻アニマルパーク」
- 韓国ソウル「Seoul Art Expo 2019」
- 2020 BEYOND GAMES—ART EXHIBITION in TOKYO

お客様紹介

富士急グループ

ホテルマウント富士様

山梨県南都留郡山中湖村

お客様から高い評価、開設3年目の露天風呂「はなれの湯」



待合ホールの左官職人による「富士山の鏝(コテ)絵」も評判です。

絶景展望露天風呂はなれの湯
天然のアルカリ性単純温泉。絶景を眺めながら、ゆったりと非日常のひとときをお過ごしいただけます。

昭和38年(1963)開業の老舗リゾートホテルホテルマウント富士に3年前に新設オープンした「はなれの湯」は、富士山と山中湖を一望できる絶景露天風呂として好評を博しています。ホテル敷地内で山中湖と富士山の眺望が最も素晴らしい傾斜地に立地し、完全開放可能な半露天となっており、四季折々で表情を変える緑豊かな山中湖と雄大な富士山を同時に眺めることができます。浴槽には、「美人の湯」「美肌の湯」とも言われるアルカリ性の泉質をもつ「紅富士の湯」が注がれており、日帰りのお客さまも気軽に立ち寄りいただくことができます。

建設プロダクトのヤマトは、2017年に「はなれの湯」の設計・施工を担い、その後3年が経過しました。このたび、ホテルマウント富士の皆様から、ご感想をお寄せいただきました。

(2020年9月14日取材)

施設概要

- 所在地 山梨県南都留郡山中湖村山中 1360803
- 建物概要 地上6階地下1階
- 客室数 150室
- 付帯施設 露天風呂付温泉大浴場、展望露天風呂、インドアプール、カラオケルーム、卓球コーナー、散策路、ペットホテル、売店



ホテルマウント富士の外観

お客様の声

「河内名誉総支配人」

はなれの湯が出来たおかげで、お客様が沢
山来ました。年間計画を達成し、はなれの湯の
効果が大きいことを実感しました。このホテルの生命線です。

「風間支配人」

はなれの湯は多くのお客様から高く評価していただいで
います。紅葉の時期にはトレッキングのお客様がいらっしゃるこ
とを期待しています。

「古屋施設管理マネージャー」

設計段階からヤマトさんに携わっていただき、なるべく人手
をかけないシステムをお願いしたところ、実際に手のかからな
いシステムでした。塩素臭の少ない自動塩素注入装置や、1日
数回必要だった水質検査を1日1回で済むので、省人化になっ
ています。衛生状況は、3年間



マネージャー 古屋菊雄さん(左) 名誉総支配人 河内清一郎さん(中央) 支配人 風間利仁さん(右)

全く問題ありません。ヤマト
さんの社員の皆さんはとも
親切で、操作方法がわからな
いと問い合わせると、すぐ
わかりやすい資料を送って
くれたり、タスクプラスを導
入していますが警報が出るこ
とに連絡があり、とても安心
感があります。マウント富士
のお風呂が順調に稼働してい
るのは、ヤマトさんのおかげ
と感謝しています。「ヤマトで
良かった」と思っています。

随想

河内清一郎

はなれの湯のあった場所は、
子どもの遊び場でした

私が小学生の頃、この山にホテ
ル建設の計画が持ち上がりまし
た。それがホテルマウント富士で
す。山は子どもたちの絶好の遊
び場だったので、それをホテルに
奪われてしまったため、建設現場
のダンプカーに小石を投げたり
して、ささやかな抗議活動をし
ていました(笑)。私が25年前に
当ホテルの支配人になった時、同
級生が「反対運動をしていた人
が支配人はまずいんじゃないか」
と笑い話にしてくれました。

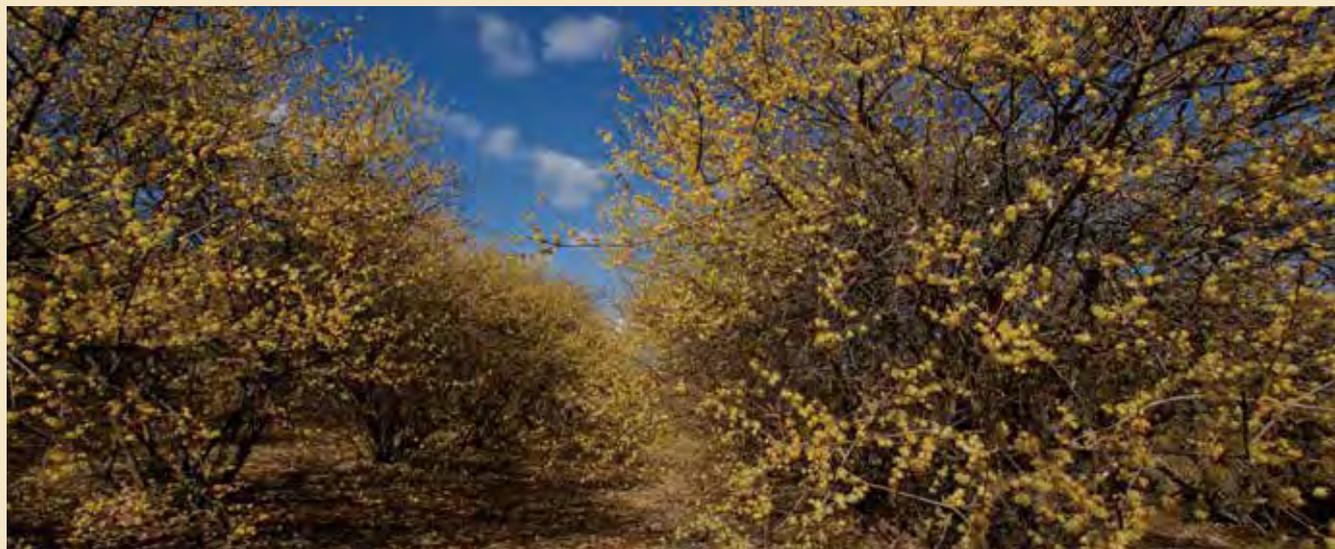
はなれの湯がある場所は、以
前は芝生になっていて、大きな松
がありました。富士山を眺める
のに絶好の場所でもあり、お風呂
の中から、子どもの時に遊んだ
景色が見られるのです。はなれ
の湯からの景色は日本一と自負
しています。



ホテルマウント富士の外観。山中湖畔・標高1100メー
トルの大出山(おおいでさん)山頂に、「富士山を眺るた
めのホテル」として誕生しました。山中湖と雄大な富士
山の景色がオンリーワンの魅力です。1980年代には、
「東洋のパカンスホテル」として各国からVIPが訪れ
ました。「富士山が見えなかつたら、お部屋代を無料にし
ます」という名物企画でも話題を集めています。

写真で楽しむ 群馬の自然～季節の花～

蠟梅(ろうばい)



古くから和歌や画題にされてきた蠟梅。2m～4mほどの落葉低木で、寒い冬に甘い香りを放ちます。名前の由来は中国語の読みの「ラーメイ」が語源とする説、花の色や光沢が蜜蝋を連想させるから、などがあります。花言葉は「慈愛」。安中市のろうばいの郷には、3.2ヘクタールの敷地に最盛期になると1,200株、12,000本のろうばいが咲きます。例年、12月末から1月上旬が見ごろです。

<ろうばいの郷>

安中市松井田町上増田3677

詳しくは、ろうばいの郷ホームページをご覧ください。

<http://www.roubai.com/>

写真 「ググっとぐんま写真館」から転載

表紙の絵「蠟梅の香り」

須藤 和之 Kazuyuki sutoh プロフィール

1981年 群馬県前橋市生まれ

2005年 多摩美術大学 絵画学科 日本画専攻 卒業 2007年 東京藝術大学大学院 美術研究科 文化財保存学専攻 保存修復日本画 修了 2010年 同大学大学院 保存修復日本画 博士課程修了 博士号取得 2010年 東京藝術大学大学院博士課程修了 博士審査展 お仏壇のはせがわ賞特別賞 個展(画廊翠巒)(同2011,12,13,14,15,16,17,18,19,20)

2012年 第63回群馬県美術展初入選(2015年 県議会議長賞, 2017年 県知事賞) 2013年 アーツ前橋開館記念展「カゼイロハナ・未来への対話」 出品2014年 個展(日本橋三越本店) (同2017,20) 2016年 個展(株式会社ヤマト) 現在 慶應義塾大学非常勤講師 日本美術院院友 OFFICIAL WEBSITE:SUTOOO.NET URL: <http://sutooo.net/>



和's YAMATO (わずやまと) 令和3年(2021年) 初春号 (第47号)

【和's yamato】の由来

ヤマトの漢字の「和」、Water&Airの頭文字を合わせて「WA」、「S」はスタート。

ヤマトが発信するメッセージです。和's YAMATO 初春号/2020年12月発行

発行：株式会社ヤマト (広報室) 群馬県前橋市古市町118 tel:027-290-1891 fax:027-290-1896

建設プロダクト  〒371-0844 群馬県前橋市古市町118 tel:027-290-1800 (代) fax:027-290-1896

支店 / 東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北 営業所 / 軽井沢、伊勢崎、神奈川県央、茨城、太田、東松山、新潟、長野、渋川、川口、多摩、横須賀、滋賀、青森
付属施設 / 大和環境技術研究所、大和分析センター、加工センター、朝倉工場、教育センター、コンタクトセンター、サポートセンター

ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp/

